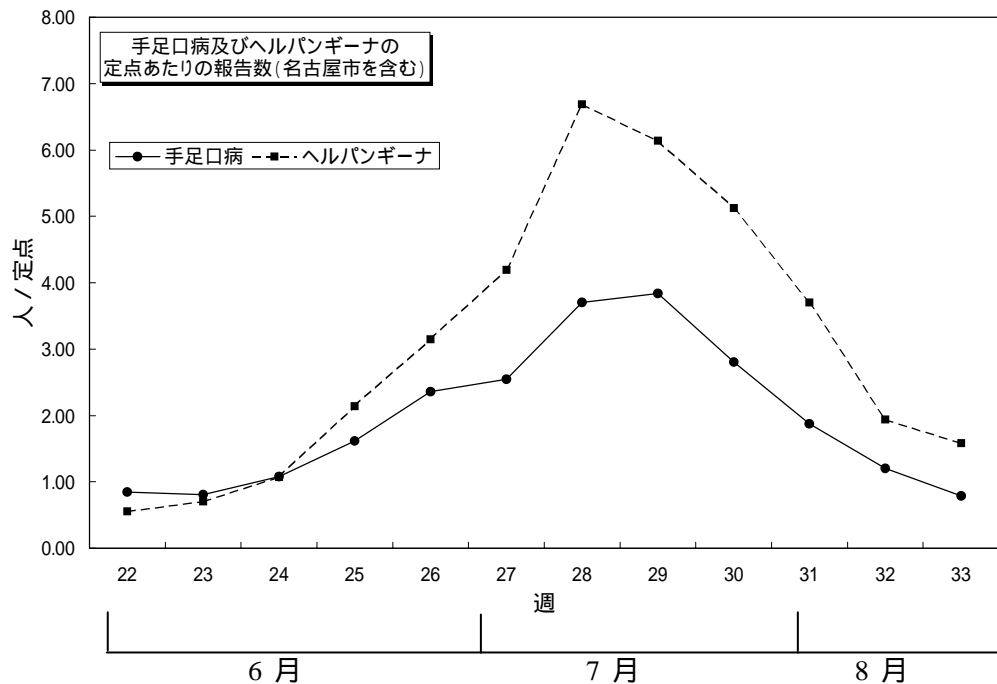


愛知県感染症情報

平成 11 年第 33 週（8 月第 3 週）

（コメント）

ヘルパンギーナ及び手足口病の第 22 週から第 33 週までの推移を示したグラフです。両疾病ともピークは過ぎたようです



（先生方からのコメント）

- ・ 病原性大腸菌 VT1(-)
（岡崎市 医療法人川島小児科水野医院）
- ・ 細菌性腸炎は 8 才男児サルモネラ（0-4）で入院、2 歳女児サルモネラ 0-9
（岡崎市 花田こどもクリニック）
- ・ 0 才 2 ヶ月の咳上げ発作のある赤ちゃんで、百日咳抗体（東浜株、山口・小林株）の有意な上昇があり、同時にパラインフルエンザ の顕著な抗体価上昇を認めました。

病原性大腸菌 0-124 2 才男子、0-6 11 才女子

キャンピロバクター 16 才男子

アデノ 6 才女子

腸炎ピブリオ 2 才女子

黄色ブドウ球菌 2 才男子

（尾西市 城後小児科）

- ・ 感染性胃腸炎 9才男児 サルモネラ 0-8
(一宮市 後藤小児科医院)
- ・ プール(温水プール)に行ったことがあるという、流行性角結膜炎が多いのが印象に残っています。
(一宮市 ふなはし眼科)
- ・ ヘルパンギーナの流行はなくなった様です。
(春日井市 片山こどもクリニック)
- ・ 手足口病はかなり減ってきた感じです。
(西尾市 山岸クリニック)
- ・ 手足口病、ヘルパンギーナ共に流行は終わった様です。
(西尾市 やすい小児科)
- ・ サルモネラ 0-4 の感染性腸炎が目立ちます。
(碧南市 永井小児クリニック)
- ・ 無菌性髄膜炎(3才女児)1例ありました。
(立田村 谷本医院)
- ・ 感染症もおちついてきました。
(岩倉市 なかよしこどもクリニック)
- ・ サルモネラ 0-8 2例、0-4 1例の腸炎
(東海市 東海市民病院)
- ・ 7才女サルモネラ(0-9)
(豊橋市 こどもの国大谷小児科)
- ・ 夏休みのためか感染症がかなり減少してきた。
(豊橋市 あずまだこどもクリニック)
- ・ 夏カゼもピークをすぎたようです。
(豊橋市 富田小児科)

(1~3類感染症の発生状況)

腸管出血性大腸菌感染症患者2名。

瀬戸保健所管内在住の48才女性。8/10発病、8/10初診、8/18診定。

菌型は、0157、VT2(+)

瀬戸保健所届出受理の16才男性。8/12発病、8/14初診、8/20診定。

菌型は、0157、VT1、2(+)

(全数把握の4類感染症の発生状況)

発生はありません。

「夏休みに入って外来がやや暇になりました」というお手紙をいただいています。印度でしばらくの間下痢やポリオの調査をしておりました。ガンジス河中流域はモンスーンをむかえ田植の最中でした。いつも貴重な情報を有難うございます。遅くなりましたが 7 月後半のまとめをお送りします。

1. 名古屋市内：夏カゼ流行シーズンです。ヘルパンギーナが主体で手足口病散発、発熱と咽頭発赤のカゼが各地区で発生していますが無菌性髄膜炎はぼつぼつで大流行の報告はいただいておりません（名鉄病院宮津先生、第一日赤有吉先生、国立病院松下先生、第二日赤岩佐先生、城北病院渡辺先生、千種区今枝先生、三菱病院岩間先生、中京病院柴田先生、労災病院山田先生、大同病院水野先生）。ウイルス性の下痢症や病原性大腸菌、サルモネラなどによる細菌性下痢症が各地区で発生しています（第一日赤有吉先生、城北・渡辺先生、千種区今枝先生、三菱・岩間先生、労災・山田先生、大同・水野先生）。溶連菌感染症（第一日赤有吉先生、三菱・岩間先生、大同・水野先生）、膿痂疹（城北・渡辺先生、労災・山田先生）、ブ菌性火傷様皮膚症候群（中京・柴田先生、大同・水野先生）、川崎病（国立・松下先生、中京・柴田先生）、仮性クループ（中京・柴田先生、労災・山田先生）、ウイルス性発疹症（千種区今枝先生）、ウイルス性筋炎（大同・水野先生）、などのお手紙が目につきました。

2. 尾張地区：犬山市武内先生からはヘルパンギーナ多発中で手足口病と水痘が散発中、津島市民病院片桐先生からはクループ症候群、咽頭炎主体の感冒とサルモネラ腸炎が日立って、江南市昭和病院丸地先生からはムンプス、水痘（重症例日立つ）、ヘルパンギーナ、1 歳以下の百日咳、溶連菌感染症、ヘルペスウイルス感染症、膿痂疹（MRSA 目立つ）など、瀬戸陶生病院山口先生からはヘルパンギーナと溶連菌感染症が小流行中で無菌性髄膜炎は皆無、常滑市民病院肥田先生からはヘルパンギーナ（入院例あり）と口内炎のない夏カゼ流行中、市立半田病院中島先生からはヘルパンギーナと手足口病が発生、百日咳が 1 例あったとのお手紙をいただきました。

3. 三河地区：豊田地区からはヘルパンギーナが一番多く手足口病が続いており、無菌性髄膜炎は少なく、肺炎と喘息性気管支炎目立つ（加茂病院岩瀬先生、市内竹内病院梶田先生）、岡崎市民病院系洲先生からはヘルパンギーナと手足口病日立つ、安城更生病院小川先生からはヘルパンギーナと手足口病の流行が続き痙性クループ様症状の入院が目立つ、知立市近藤先生からは手足口病が流行中で 38~39℃・3~4 日間下熱後咳嗽の高熱性感冒がやや多くヘルパンギーナがパラパラあり、刈谷市田和先生からはヘルパンギーナが多発中で手足口病と水痘がぼつぼつ、碧南市永井先生からはヘルパンギーナと手足口病が目立ち水痘と溶連菌感染症散発中、豊橋市からはヘルパンギーナ、手足口病、ムンプス、細菌性腸炎、咽頭結膜熱などが目立ちマイコプラズマ肺炎が少々発生中（市内宮澤先生、長屋先生）とのお手紙をいただきました。有難うございました。

（文責 磯村）